

別紙２ 個別施策分野別 脆弱性評価結果**⑦国土保全****（河川改修等の治水対策）リスクシナリオ１－２**

- 洪水による水害を予防するため、河川改良工事等の治水事業とともに、河川情報施設の整備強化及び維持管理強化等の河川管理体制の強化を進める必要がある。
- 桜川沿岸 150ha、観音川沿岸 50ha は 150mm 以上の降雨の際は流域一帯が冠水し農作物等の被害を被るので、その未然防止対策として下記の対策を講じる必要がある。
 - （１） 桜川の曲部改修工事の促進を要請するとともに、常時降雨量と気象情報に注を
はらい防災無線・広報車等により事前指導する。
 - （２） 観音川については、真壁地区、大和地区は土地改良事業等により、被害防止対
策をはかるとともに河川改修の促進を要請する。

（総合的な土砂災害対策の推進）リスクシナリオ１－３

- 急傾斜地崩壊対策事業の推進に向け、国や県等に対し協力を要請し対策工事の施工を進めるとともに、危険予想箇所の調査を行い、危険区域ごとにその範囲・面積・人口・世帯数・建物等について、県が実施する調査結果等をもとに、予想される災害について被害状況を検討する必要がある。
- 土砂災害の危険性や避難に関する情報を伝達するための防災マップを作成し、市民に広報周知しておく必要がある。
- 地盤沈下は、地震水害の被害を増大させる可能性があり、地盤沈下による建築物、土木建造物等の耐震性の劣化の可能性が指摘されているため、地盤沈下の進行を停止させるよう、広域的な地盤沈下の原因である地下水の過剰揚水を規制する必要がある。
- 山桜や里山の保全活用への理解と関心を深め、直接保全管理や調査に関わることで地域が取り組みやすい環境整備を進めながら、農林業者や地域コミュニティだけでなく、ボランティアや活動指導者の育成、土砂災害対策等も含めた技術研修など人材育成に取り組む必要がある。

（土砂災害防止施設等の長寿命化対策）リスクシナリオ１－３

- 土砂関連災害を未然に防止し、あるいは最小限にとどめるため、国や県などの協力を得て災害対策工事を進めるとともに、地すべり防止等予防事業の促進を図る必要がある。

【重要業績指標】**（総合的な土砂災害対策の推進）**

普通河川浚渫箇所：３箇所（R1）【建設課】

普通河川改修箇所：１箇所（R1）【建設課】

山桜の保全活用に関わる人材育成数 ２５人（R4）【ヤマザクラ課】